

(速報) 経鼻内視鏡検査を導入しました

食道や胃，十二指腸などの管状の臓器の病気の診断においては，どうしても内側からのぞくという方法をとらざるを得ません．これまでの内視鏡検査(胃カメラ)は，のどの麻酔を行った後，マウスピースをくわえて，内視鏡を口に挿入していく方法でした．内視鏡を細くする技術が発達した事で，通常の内視鏡も細径化が可能となってきました．しかしながら，やはり内視鏡がのどを通過して食道に入っていくために，どうしても，不快感はつきものでした．この部分をさけて通るために生まれてきたのが，経鼻内視鏡です．

経鼻内視鏡を受けられるにあたっての，利点と欠点については，以下のようなものがあげられます．

【 利点 】

検査時の不快感の軽減．検査中に会話も可能．

なんとといっても，検査中の「オエエエーッ」の

不快感が軽減されます．

【 欠点 】

最新の拡大機能付内視鏡と比べると，どうしても画像の質が低下する．

同時に生検(細胞を採取する検査)以外の処置(止血など)を行えない．

慢性胃炎のある方には胃癌の発生が多い事が先日報告され，一般新聞紙上でも報道されました．胃の症状が気になる，あるいは一度胃の検診を受けてみようという方には，負担の少ない経鼻内視鏡が最適ではないかと考えられます．

一方，内視鏡検査を受けていただく最大の目標は**病気の発見と診断**です．そして，内視鏡検査の診断は人間の目で見ることによっています．特に胃では胃酸や胃炎の影響などの個人差が大きいため，エキスパートでも診断を迷う場合があります．特殊な疾患でない限り経鼻内視鏡でも病変の発見，診断には支障はありませんが，明確な診断が得られないような場合には，通常的口から挿入する内視鏡での経過観察や精密検査を受けていただく事も御了承ください．

実際に検査を行うにあたっては，経鼻内視鏡をご希望の場合には，なるべく希望に沿うようにつとめますが，症状などを考慮して，適応を決めさせていただきますので，予約にあたっては内科外来でお気軽に担当医にご相談ください．